

News Letter

自治医科大学地域医療オープンラボ

Vol.39, Dec, 2010

日常臨床からの学位論文、そして Lancet への道

山形県立中央病院内科消化器科長 内視鏡室長 深瀬 和利 (山形県 6期)

私は 1983 年 (昭和 58 年) 自治医科大学卒業後、現在の勤務先である山形県立中央病院で 2 年間の初期研修を行い、内科消化器グループに所属し後期研修を続けました。当院は胃癌の内視鏡的粘膜切除術 (EMR) を全国的にも古く 1978 年から施行している病院で、山形県は胃癌患者数が多いこともあり症例も豊富で、EMR の介助者から術者となり、そのデータ整理も担当するようになりました。地域の病院に出ても週 1 回の研修日は EMR 実施日にとらせていただき、義務年限最後の 3 年間は雨の日も雪の日も片道 2 時間をかけて日本海側の町立八幡病院 (現酒田市立八幡病院) から山形市まで通っていました。積極的に学会発表も行っていました、1989 年に第 38 回日本消化器内視鏡学会総会で初めてシンポジストとして演題が選ばれた時には実にうれしかった記憶があります。地域の病院にいる時こそ、地域



医療もおろそかにすることなく、自分の興味のある分野を深める良いチャンスだと思います。学位については、臨床からかけ離れた研究のための研究での学位取得には興味はなく、自分の専門分野を深めた結果の学位であれば欲しい、というのが私のスタンスでした。私は 1987 年から山形大学医学部第二内科 (消化器内科) の研究生になっていたこともあり、1990 年に胃癌の EMR の総論的まとめで 1 度目の学位審査に臨みましたが失敗でした。翌々年には胃癌の EMR の長期予後について 2 度目の学位審査に臨みましたが、外科教授のクレームもありまたも失敗でした。しかし、同時期同条件の胃癌について EMR と外科手術が併存していた貴重な時期 (1978~1989 年) の症例に関し、両治療法の長期予後において有意差がないことは、新たな治療法である EMR が外科手術に対して示した非劣性のノイエスと思われ、論文化し私の初の英文原著となりました¹⁾。義務明けと同時に 1992 年から山形県立中央病院内科消化器グループのスタッフとして迎えられました。日常臨床に忙殺され学位論文は棚上げとなっていました、山形大学第二内科の第三代教授になられた河田純男先生から学位再チャレンジのお声がけをいただき、先に英文化した論文を基にさらに長期予後の調査を加え検討し、2002 年 3 度目のチャレンジにして学位を取得することができました。学位審査論文は英文でしたが、主査の教授の指示により和文にして医学雑誌に載せることとなりました²⁾。EMR の認知度が上がった時代背景、良き師・友・同僚・後輩に恵まれたこと、あきらめずに努力を続けたこと、家内の協力、時の運、などが渾然一体となつての成功だったと思います。臨床の最前線に身を置きながら、臨床データをまとめて学位論文に仕立て上げるのは並大抵のことではなく、夜に病棟の仕事が終わってから主査の教授室にお邪魔して手直しを受け、深夜にそれを修正し、毎日のように大学に通った予備審査前のあの時期には、決して戻りたいとは思いません。しかし臨床重視で取得したこの学位に関しては、いかにも自治医大卒業生らしいスタイルだったと自分では満足していますし、このような道もあるのだということを後輩にも示せたのではないかとと思っています。

当院のような県立救命救急センターを併設する公的総合病院は多忙を極めますが、私は国際学会での発表もコンスタントに続けてきました。1994 年 WCOG (世界消化器病学会) ロサンゼルスを皮切りに、1996 年 UEGW (統合ヨーロッパ消化器病週間) パリ、1998 年 WCOG ウィーン、2001 年 APDW (アジア太平洋消化器病週間) シドニー、2003 年 IGCC (国際胃癌学会) ローマ、2005 年 WCOG モントリオール、2006 年 UEGW ベルリン、2007 年 UEGW パリ、2008 年 UEGW ウィーン、2009 年 WCOG ロンドンなどです。全ての学会に必ず後期研修医も同行させ、若手に国際学会の経験を積ませてもらいました。私は学生時代に自治医大の姉妹校であるコーネル大学に短期留学させてもらいましたが、自治医大時代に中村美子先生の英語ゼミでブラッシュアップを続けた英語力は現在も役に立っていますし、今も英語力を維持するべく英米人との遊学努力 (酒席での酔拳ならぬ酔英語は特に重要!) を続けています。

ピロリ菌の除菌が胃癌発生を抑制するか否かという介入試験は数多く行われていましたが、抑制するというエビデンスの報告は世界的にもありませんでした。そこでピロリ菌陽性の胃癌 EMR 後患者を対象とした除菌介入試験が北海道大学医学部第三内科浅香教授を中心に計画され、EMR 症例数の多い当院も参加することとなり、全国 51 施設からなる Japan Gast Study Group (JGSG) が組織され、2001 年から登録が開始されました。全国から 505 例が登録され、除菌群 255 例、非除菌群 250 例に無作為割り付けられ、3 年間の経過観察内視鏡検査後 2006 年に最終解析がなされ、除菌群において二次胃癌の発生が有意に抑制されたことが明らかになりました。JGSG のユニークなところは登録症例の最も多い医師が論文化における著者となると決めていたことでした。当院からの登録数は 98 症例と最も多く、私が筆頭著者となることとなり論文化が始まりました。また当初は予定にはなかったことですが、2008 年 5 月の米国サンディエゴでの AGA/DDW (アメリカ消化器病学会/消化器病関連学会週間) での口演発表 (K. Fukase, M. Kato, S. Kikuchi, M. Asaka : Eradication of *Helicobacter pylori* for the incidence of metachronous gastric cancer after endoscopic resection) も私が指名され発表してきました³⁾。これは JGSG の事務局が私の国際学会での発表実績を評価し白羽の矢を立てたものではないかと想像しています。論文化は 4 度の手直しを経て、2008 年 8 月に Lancet 誌⁴⁾に掲載され世界に向けて発信されました。この論文のエビデンスが基となり、2010 年 6 月にはピロリ菌の除菌適応が「早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃」



にも拡大されました。一つの論文が動き出し、新たな歴史を造り始めています。この論文による影響だけではありませんが、私は 2010 年 4 月から山形大学医学部消化器内科臨床教授を拝命しました。また来年 2011 年 2 月 4 日には第 146 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会会長として東北地方会 (<http://jges146t.umin.jp/>) を開催しなければならず、現在もその準備で毎日忙しくしていますが、まだまだこれから新たな未知なる世界が楽しめそうです。

一人一人の患者さんを大切に、症例をまとめては何かノイエスはないかと考え解析し、学会発表 (特に国内総会でのシンポジウムなど主題演題) を続け、常に論文化 (できれば英文原著) を心がけ、国際的にも発信を続け、生み出された新たなエビデンスをまた一人一人の患者さんに還元する、これを愚直なまでに続けることが臨床医の姿勢 (至誠) であると思っています。この拙文が、臨床が大好きで研究にも前向きな後輩諸氏のお役に少しでも立つことができれば幸甚の極みです。

- 1) Kazutoshi Fukase et al. Evaluation of the Efficacy of Endoscopic Treatment for Gastric Cancer Considered in Terms of Long-term Prognosis – A Comparison with Surgical Treatment-. Digestive Endoscopy 6 : 241-247, 1994
- 2) 深瀬和利, 河田純男. 10 年以上の長期予後成績からみた早期胃癌に対する内視鏡的治療の評価—外科的治療と比較して-. 山形医学 22 (1) : 1-8, 2004
- 3) 深瀬和利. *Helicobacter pylori* 除菌による胃がんの予防. 最新医学 65 : 130-134, 2010
- 4) Kazutoshi Fukase et al. Effect of Eradication of *Helicobacter Pylori* on Incidence of Metachronous Gastric Carcinoma after Endoscopic Resection of Early Gastric Cancer : an Open-label, Randomised Controlled Study. Lancet 372 : 392-397, 2008

【発行】自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>